

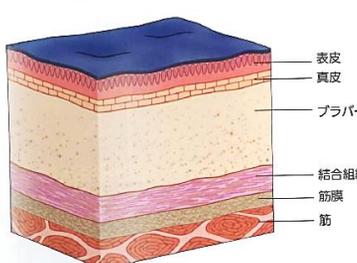


ここにいるから

Vol. 20

発行 2023.2.1
発行所 天草漁協

発行 2023.2.1
発行所 天草漁協



イルカの皮膚 (模式図)

イルカの基礎知識 体温

イルカやクジラは海の中で過ごしながらかも、体温を **35、36度** に保っています。しかし種類によって、快適と感じる水温範囲がことなり体温調節能力に差があることがわかっています。さて、イルカには体毛がないし、服を着ることもありません。エアコンももちろんありません。というわけで、**体温を産生**し、それを保持するために発達させたのが、脂肪です。イルカの場合、内臓脂肪はほとんどなく、皮の下に「**ブラバー**」と呼ばれる脂肪層があります。ブラバーは、保温がいいにもエネルギー貯蔵や浮力、遊泳力の支持など、とても重要な役割になっています。

次に、**体温を下げる方法を解説**します。イルカ(クジラ)は、**厚い脂肪層**があるうえに、**汗をかくことができません**。そのため、**激しい運動(泳ぐ)**をすると体温が急上昇してしまいます。そんなときに活躍するのが、主に**背びれと尾びれ**。これらの部位は体表面にちかいたところに血管があり、体温が上がり過ぎないように熱を体外に逃がす機能があります(対向流熱交換システム)。とくにメスの子宮やオスの睾丸は、冷却された血液が巡るようになっていきます。暑いときには、背びれや尾びれの血流を増加させて放熱します。ヒトも発熱時には、体表面に近く太い血管(首、わきの下、脚のつけね)を冷やすことで体温を下げる方法がありますが、そのイメージに似ているといえます。



天草イルカ調査室

天草漁協 通詞島沖イルカ環境実態調査事業



やってるよ!

ラッコは上のほう



ラッコはほ乳類のなかでも、とくに高密度の体毛をもっています。毛がたくさんあると、そこに空気の間層ができ、断熱効果が高まります。しかし海の深いところに潜ると、空気はしぼんでしまうので、断熱できずに体温が下がってしまいます。イルカやクジラは体毛を放棄する代わりにブラバーで体温を保つことを選びました。毛づくろいをする手も泳ぐほうに特化した胸びれに進化したそうです。



イルカは潜るほう



Amakusa Iruka Lab SDGs

記事や活動についてのお問い合わせ



天草イルカラボ



amakusa_dolphin



検索